



6月1日(水)
2022年(令和4年)
発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社



水から未来を考える

2022年6月1日、毎日新聞が主催した「#地球塾2050」に参加した。WOTA株式会社の前田瑤介社長はこう話した。「2050年には40億人もの人が水不足になってしまおうと言われていて。人口が爆発的に増えていく一方で、地球上にある水の量は変わらないためである」。水は使っても無くならない。浄化して循環させる持続可能な社会を作らなくてはならない。

(諸石悠真)

新しい技術

今までの日本の上下水道は、災害に弱く、数十年かけて建設し数十年の投資回収をしなければならなかったが、WOTAが開発した小規模分散型水循環システムだと災害に強く1日で設置し、数年で投資回収ができるという。小型かつ高再生率で飲用可能な浄水器は、このWOTAの物が世界で初めてだ。この技術を使えば、多くの国で水不足や水問題を解消することができるだろう。また、上下水道との併用も可能なた

め、WOTAの浄水器を買ったとしても上下水道の撤去などはしなくて良いと思う。だ。

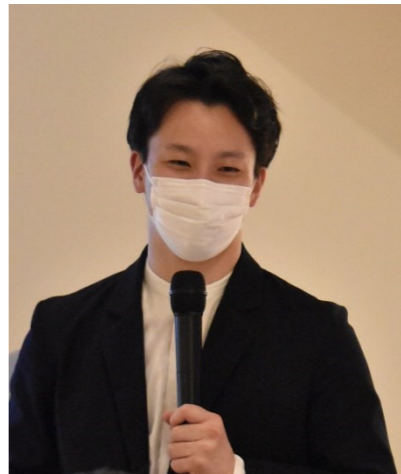
(川名璃子)

誕生のきっかけ

前田社長はWOTAが設立された理由を「今までの方法では水問題を解決できないと思った」と答えた。世界では水需要の急増や気候変動により、水の供給が追いつかず、水再生の重要性が急増している。それを解決するため「小規模分散型水循環システムで世界の水問題を解決」というコン

セプトを立ち上げたWOTA。上下水道システムが地域に一つあるよりも、WOTAの製品が家に一つあることで、世界の水問題解決に大きく近づくことができるだろう。

(成田彩桜)



起業という手段

今の世の中は就職が当たり前という価値観はないだろうか。環境問題を解決するために、今ある企業に就職する事もできる。しかし、新しい物を生み出すことで課題を早く解決できるかもしれない。前田社長はきれいな水をどこでも使えるようにしたいと思いWOTAの代表に就任した。環境問題は世界の人と関われるチャンスだと捉えたという。進路を考える上で、起業も選択肢の一つにしたい。

(荒川実和子)

水を近くに

一昔前までは下水を処理場できれいにする、浄水場できれいにした水を各家庭に運ぶ、というのが水を使う上で最先端だった。しかし少子高齢化が進んでいる現代で、どのようにしてき

れいな水を手に入れていけばよいだろうか？ 実は最先端の技術によって、手元で使った水を使い、またきれいにするということができるようになった。この技術の開発によって、例えば発展途上国では水道を通す必要がなくなり、また災害時には水道が止まっても雨水をろ過し、何回も使うことができる。大がかりな設備を必要とせず、手元の水を手元できれいにし再利用していける。このような水の循環はこれからの世界にとって大きな役割を果たしていくだろう。

(木口蒼空)



真に「水の豊かな国」へ

WOTAの新技术により、着々と水の処理やリサイクル問題が解決されていきます。良いこともある反面、水害や水ストレス、水を求めての戦争など地球は問題を抱えている。それをWOTAの技術が抑えてくれているが、本当に「水の豊かな国」になるには意外と時間がかかるのではないだろうか。

(清水万由)

